

## 2009年度GCOE:コンフリクトの人文学 「研究プロジェクト報告会」

2009年4月18日

### RF「言語接触とコンフリクト」

ーコンフリクト・マネジメントの観点から見た言語接触のダイナミクスー

事業推進者 工藤真由美、渋谷勝己  
連携研究者 森幸一、山東功、白岩広行

報告者:工藤真由美

## Contact Linguistics

- この用語が使用され始めたのは、  
The First World Congress on Language Contact and Conflict  
Brussels, 1979
- 言語的な障壁を乗り越えて、共通のコミュニケーション手段を作る必要に直面した人間の創造性という観点から考える。異なった言語の話者同士がどの程度相手の言語を取り入れ順応するかは原則として限界がない。
- 2つの側面の統合化が現在の課題
  - A) 言語内的側面から:異なる言語話者のインタラクションによって起こる多種多様な言語構造におけるmixture, change, adaptation, restructuringを追求
  - B) 言語外的側面から:異なる言語集団のrelation, group loyalty, accommodation, divergence, conflict等を追求

## ハワイにおけるピジン英語の例

様々なエスニックグループ間で使用されたLingua franca

日系移民の記録(Bickerton 1981)

Samtaim gud rod get, samtaim, olsem ben get, enguru  
get, no? enikain seim. Olsem hyuman laif, olsem.

Sometimes good road get, sometimes like bend get, no?  
everything same. Like human life ,all-same.

"Sometimes there's a good road, sometimes there's, like, bends,  
corners, right?" Everything's like that. Human life's just like that.

Stawmu get, nais dey get —olsem. Enibadi,  
mi olsem, smawl taim.

Storm get, nice day get, — all-same. Anybody ,me, too,  
small time.

There's storms, nice days — it's like that for everybody, it  
was for me too, when I was young.

- ★上層語(英語の語彙)+基層語(日本語の文法)
- ★語順、語彙の単純化、文法面での形態論的な語形変化の消失(過去形無)等

## ハワイ移民における日本語の例

前山隆『ハワイの辛抱人』  
1982年福島県生、14歳でハワイに移住  
1980年記録

わしはキャンプに**おられんけえ**、仕様なくて日本人の野菜作りに行  
きました。広島県の人**とこ**だった**が**ね。**そこ**さ東北のズーンズー  
が行ったってえ、言葉が通じんのよお。

この野菜作りで、20日働いて、アカヒカラ【カナカ語(ハワイ語)で  
1ドルの意】ふたつ**もうた**。1日、テン・セントよ。それに自分で  
コックして食べて、晩には**泣きよった**で、わし。

★西日本方言と東北方言の混交(西日本方言が優勢)

## 昨年度の成果(1)

『ブラジル日系・沖縄系移民社会における言語接触』(ひつじ書房)

### 第1部 言語の接触と混交

#### 第1章 言語接触の重層性と日本語の動態:工藤真由美

ウチナーヤマトグチとコロンビア語/日系移民社会における言語接  
触/沖縄地域における言語接触/沖縄系移民社会における言語  
接触/2つの言語観をめぐって

#### 第2章 「言語」をめぐる移民史:森幸一

コーヒー耕地時代(1908年~20年代前半頃まで)/植民地時代  
(1920年代 ~40年代末)/戦後都市時代(1940年代末~80年代  
末)

補遺:沖縄系ブラジル移民を巡る〈言語〉状況(覚書)

#### 第3章 ブラジル日系移民社会と日本語観:山東功

戦前ブラジル日系社会と日本語/戦後ブラジル日系社会と日本語  
(認識派と科学的思潮、アンドウ・ゼンバチをめぐって、アイデンティ  
ティと日本語、佐藤常蔵の「コロンビア語」論、半田知雄の「コロンビ  
ア語」論)

補論 日本における「ブラジルの日本語」への視点

#### 第4章 ブラジル日系社会言語調査をめぐって：李吉鎔

ブラジル日系社会言語調査の特色／日系移民社会言語調査の概要／  
ブラジル日系移民社会言語調査の意義

#### 第5章 ブラジル日系移民社会における言語の実態：中東靖恵

ブラジル日系移民社会の言語生活と言語の接触／ブラジル日系移民社会に  
おける日本語の特徴／ブラジル日系移民社会における言語の実態（一世の  
談話とその特徴、二世の談話とその特徴、三世の談話とその特徴）

寄稿 ピラカロンの小椋田原人

#### 第2部 言語接触の実態

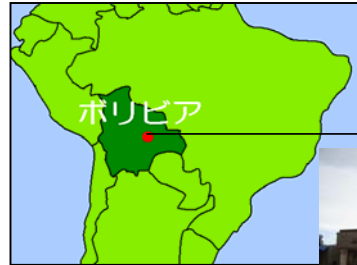
第1章 ブラジル日系移民社会の談話（言語生活調査の概要、談話収録調査の概  
要、データ公開までの経緯、談話収録地点の概要、ブラジル日系移民社会の談  
話資料、談話音声資料の話者、CD-ROMの構成内容、談話音声文字化資料）

第2章 ブラジル沖縄系移民社会の談話（言語生活調査の概要、談話収録調査の  
概要、データ公開までの経緯、談話収録地点の概要、談話音声資料の話者、  
CD-ROMの構成内容、談話音声文字化資料）

#### 昨年度の成果(2)

ボリビア沖縄系移民社会における言語接触

調査地



サンタクルス県ワ  
ルネス郡  
第1オキナワ村



#### ボリビアへの移民史概略

1899年 日本人移住者入国（ペルー移民790名の一部）

1914年 国交樹立

1915年 日本人協会発足（リベラルタ）

1922年 日本人会設立（ラバサ市）

★戦前に入植者は少数

1942年 国交断絶（在留邦人29名をアメリカ収容所に移送）

1954年 移住協定締結

沖縄移住地（ボリビア東部・サンタクルス県郊外）建設

サンファン移住地（沖縄を除く都道府県から、サンタクルス県郊外）建設

（ボリビアにおける戦後計画入植は、琉球政府を通じて 沖縄系移民社会と、日本政

府関係団体による日系（本土系）移民社会とに分かれる形で、それぞれ独自に展開）

1965年までに：584家族、3385名が沖縄から移住

1980年代：日本へのデカセギによる減少

1987年：オキナワ第1日ボ学校開校

1999年：TV-OKINAWA開局（NHK国際放送）

2004年：オキナワ入植50周年記念祭典

2005年：サンファン（本土系）入植50周年記念祭典

オキナワ村の現在の状況

・沖縄系：約870人

・ボリビアからの移住（非沖縄系・非日系）により

総人口 約12000人

ボリビア政府により正式な行政区として制定

#### 談話録音調査（2007年実施）の文字化と現地での確認作業 （2009年3月、連携研究者による）

##### ■ 談話録音調査について

言語生活調査対象者100名から抽出。今回の調査は、時間的な制約や調査設計の点からも極めて  
簡略化したものにならざるを得なかったため、本格的な検討と調査は今後に変更されるべきものである。

##### ■ 【1世】

成人移民男性1、2、3（77歳・名護出身）（76歳・北谷出身）（58歳・読谷出身）

成人移民女性4、5、6（84歳・豊見城出身）（81歳・読谷出身）（56歳・今帰仁出身）

子供移民男性6、7

（60歳・豊見城出身：13歳で移住・デカセギ7年）（55歳・読谷出身：5歳で移住・デカセギ1年半）

子供移民女性8、9、10（54歳・中城出身：12歳で移住・観光で訪日）

（49歳・金武出身：1歳で移住・病氣治療で訪日3ヶ月）

（48歳・読谷出身：1歳で移住・研修で訪日1年半）

##### ■ 【2世】

中年男性1、2、3（42歳・研修で訪日1回）（42歳・デカセギ2年）（47歳・デカセギ13年）

中年女性4、5（37歳・デカセギ2年）（31歳・デカセギ7年）

青年男性7、8（28歳・訪日経験なし）（24歳・訪日経験なし）

青年女性9、10（24歳・観光訪日1回）（24歳・観光訪日1回・研修で訪日2回）

##### ■ 【3世】

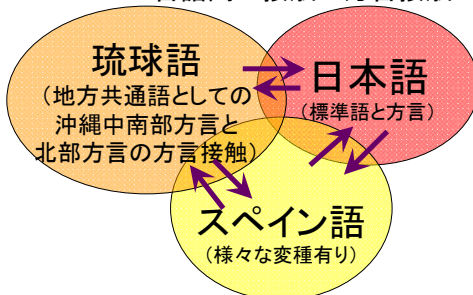
男性1、2、3（20歳・訪日経験なし）（18歳・日本生まれ・3歳でボリビアへ・その後の訪日経験なし）

（16歳・日本生まれ・2歳でボリビアへ・その後の訪日経験なし）

女性4、5、6（21歳・研修で訪日1回）（20歳・観光訪日2回）（17歳・研修で訪日1ヶ月）

#### 沖縄系移民社会での言語接触

3言語間の接触＋方言接触



### 世代ごとの使用(ただし、実際は混交)

|       | 1世 | 2世  | 3世  |
|-------|----|-----|-----|
| 琉球語   | ◎  | ○～△ | ×   |
| 日本語   | ◎  | ◎   | ◎～△ |
| スペイン語 | △  | ○～◎ | ◎   |

1世子孫移民は2世に準じる。  
詳細なデータは分析中

#### 1) 琉球語(主)

「ハイサー」ンチ ウシヌ チブル ヨカカイ タッピラカ  
チョールバーヨ  
「それよー」と言って牛の頭を床に叩きつけたんだよ

#### 2) 伝統的な琉球語と日本語のコードスイッチング

アノー セーユガイシヤガ アイシェ ウブイトーン?  
ヒダリガワニ ハカパノ チカクニ  
あの一、製油会社があるだろ、覚えてる?  
左側に、墓場の近くに

#### 3) 伝統的な琉球語と本土日本語の混交 (ウチナーヤマトウグチ:意識としては日本語)

(綿作での失敗談)

サイショノ トキワ ジョートーダッタガ アトカラネ・・・  
最初のときはよかったが、後からね・・・

「スミマセン」ッテ ッテッテ アノ アヤマリヨッタケドサ  
「すみません」って、って言って、あの、謝ったけどさ。

(教師生活の楽しさを聞かされて)

ソーナンダ タノシーハズネ  
そうなんだ。楽しいだろうね。

#### 4) 琉球語、日本語、スペイン語の混交

ジブンタチ uno pesoナー モッテッテモ

カイキレンワケサ

自分たちが1ペソほど持っていっても買えないのよ

oye mierda ワッター trigoノ ドーナッテルカネ

あー、くそー、俺たちの小麦、どうなってるのかね

### 今年度の課題

・ボリビアにおける日本人移民社会は、主として琉球政府による沖縄系移民社会と、日本政府による日系移民社会が、いわば対比される形で成立してきたという、興味深い移民社会形成史を有している。そういった移民社会の特質をふまえた日系・沖縄系移民社会における日本語、さらにはスペイン語との言語接触とコンフリクトといった言語のあり方について国内で言及された研究は皆無に等しい。

・特に、沖縄北部出身者の場合

- ・沖縄北部方言と中南部方言(地方共通語)のコードスイッチング
- ・沖縄中南部方言と本土日本語の混交(ウチナーヤマトウグチ)
- ・ウチナーヤマトウグチとスペイン語のコードスイッチング

・ハワイ、ブラジル、ボリビアにおける日系・沖縄系移民社会における言語接触の共通性と違い(Convergence とDivergenceの観点から)  
単一的な日本語観に対峙する言語事実・運用実態の記述